

声をカタチに

声をあげればまちはよくなる

古田町長が町民の皆さんのところへ伺い、テーマに沿って意見交換を行う「タウンミーティング」を、全9回にわたり開催しました。今回のタウンミーティングでは、「公共施設巡回町民バス」と「ごみの減量化」について意見交換を行い、延べ255人の方が参加されました。

地区	開催日	会場	参加人数
笠松地区	10月31日(木)	笠松町役場	22人
	11月 8日(金)	厚生会館	17人
	11月30日(土)	福祉会館	29人
松枝地区	11月 2日(土)	松枝公民館	30人
	11月 7日(木)	リバーサイド笠松園	31人
	11月20日(水)	松枝みなみ会館	32人
下羽栗地区	11月 1日(金)	総合会館	17人
	11月 9日(土)	円城寺集会所	38人
	11月19日(火)	米野会館	39人

参加人数合計 **255人**

ピンチをチャンスに



地方分権の進展により、地方自治体には自立した財政運営が求められていますが、右肩上がりの経済成長を前提とした時代は終わり、少子高齢化や東京一極集中による税収減や働き手不足など、地方には課題が山積しています。

笠松町の財政状況も楽観できるものではなく、まちづくりは行政主導から、住民の皆さんや民間企業、近隣自治体と協働・連携する時代を迎えています。難しい転換期ではありますが、笠松町には、郷土愛の強い町民性や町政130年以上の歴史に培われた強みがあります。このピンチをチャンスに変える原動力は「人」。町民の皆さんの多様なチカラを合わせて笠松らしいまちづくりを始めましょう。

今回のテーマ

No.1 公共施設巡回町民バス

■公共交通を取り巻く状況

車社会の浸透により、公共交通の利用が低迷し、収益性の悪化を理由に減便が進むことで利便性が低下、さらに利用者が減少する悪循環が各地で起きています。一方で、高齢ドライバーの免許返納によって公共交通の需要が高まるという相反する課題が生じています。

■公共施設巡回町民バスの現状

民間の路線バスがない笠松町では、町が主体となり、平成5年からコミュニティバスを運行しています。有償運行への切り替えを機に、一時は利用者が減

少しでしたが、近年は増加傾向にあり、平成30年度には年間利用者が8万人の大台に乗りました。

■収益性と利便性の向上を

現在、運賃や広告収入で運行経費(約2,100万円/年)の半分強をまかなっていますが、不足する経費には皆さんの税金が充てられているため、さらに利用者を増やして収益性を上げる必要があります。

また、昨年度実施したアンケートで多く寄せられた「スーパーや病院のそばで停まってほしい」といったニーズに対し、運行の安全性を確保しながら対応していく必要があります。

■もっと便利なバスを目指して

町では、次のような検討を進めています。

- ①始発便と最終便の充実
- ②買い物や通院に便利なバスの増便・路線変更
- ③近隣市町のコミュニティバスとの連携による広域移動の利便性向上



No.2 ごみの減量化

■5億7,800万円のごみ処理費

ごみ処理に年間5億7,800万円。これは、保育所・幼稚園や障がい福祉関連事業にかかる経費を上回る額で、町の財源を圧迫しています。

特に、県外施設にごみ処理を委託^{*}している当町では、ごみの運搬と焼却処分に年間約3億円を要しており、ごみの減量



によってこれらの経費を削減することができます。

■減量化は待ったなし

現在、町の基金は12.5億円、町債は70.6億円で、一般家庭に置き換えると、預金の6倍近い借金を抱えている状況です。さらに今後は、高齢者福祉などに対する歳出の増加も見込まれるため、ごみの減量化は町にとって待ったなしの課題です。

■有料化もひとつの手段

県内42市町村のうち、家庭系可燃ごみを無料で回収しているのは、笠松町を含む4市町

のみとなりました。有料化すると、皆さんにはごみの排出量に応じて処理費を負担いただくこととなりますが、ごみの減量化や処理費負担の公平化といった効果が期待できることから、町では有料化への切り替えも検討しています。

■減量化・経費削減に向けて

町では、次のような検討を進めています。

- ①家庭系燃えるごみ:有料化
- ②燃える大型ごみ、金物・ガレキ:有料化、指定場所への搬入や戸別回収化

^{*}平成28年に岐阜市境川地内のごみ処理施設が稼働を停止したため、町では三重県と長野県にあるごみ処理施設まで可燃ごみを運搬し、焼却処理を行っています。

みんなで考える 地域のこと、未来のこと

タウンミーティングでは、各テーマについて活発な意見交換が行われました。ここでは、その一部をご紹介します。

建設的な発言が多く、職員にとっても刺激となった今回のタウンミーティング。皆さんの地域を思う気持ちにお応えできるよう、いただいたご意見やアイデアをふまえながら、課題解決に向けた道を探っていきたいと思います。

皆さんからのご意見

○バスは、どのようにして収益性を上げるのか？運賃の値上げか、それとも利用者の増加か？

⇒現時点で値上げは検討していません。路線変更や買い物客向けのバスの増便など、バスの利便性を向上させて利用者を増やすことで運賃収入をアップさせたいと考えています。また、バス停にネーミングライツ（命名権）制度を導入し、スポンサーから収入を得る方法についても調査を進めています。

○私の住んでいる地域から笠松駅までバスを使うと20分もかかってしまって、通勤には使いにくい。

⇒スーパーや病院などが営業していない早朝は、通勤・通学での利用を見込み、住宅地と駅のみを回る「急行バス」に切り替える選択肢も検討しています。

○「金物」の持ち去りが目に余る。町の財政状況や環境保全といった時代の流れからも、便利で透明性のある回収方法になるのであれば、有料化も妥当だと思う。

⇒町では、持ち去り以上に、ルール違反ごみや増加傾向にある燃える大型ごみを問題視しており、燃える大型ごみや金物・ガレキの回収方法の変更（持ち込み・戸別回収化）、有料化を検討しています。

○新しいごみ処理施設が建設されると聞いたが、いつから稼働するのか？有料化せずに焼却時の熱利用などで儲けるような仕組みにできないのか？

⇒笠松町・岐阜市・羽島市・岐南町の次期ごみ処理施設の建設用地が羽島市内に決定しました。建設開始前に、法律で義務付けられた調査を実施したり、運営業者の選定などを行う必要があるため、稼働開始は令和10年を予定しており、エネルギーの有効利用についても4市町で検討を進めています。また、施設建設費の負担割合は、各市町のごみの排出量によって決定されるため、町民の皆さんには、より一層、ごみの減量化にご協力いただきたいと考えています。



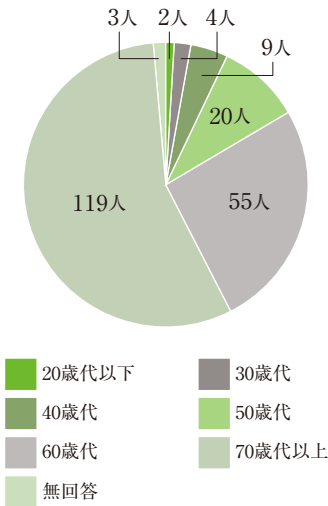
タウンミーティング、参加してみた感想は？

アンケート調査を行いました

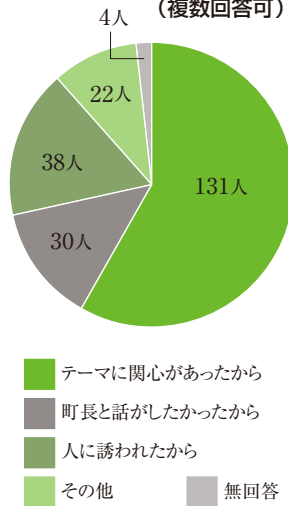


アンケート回答人数：212人

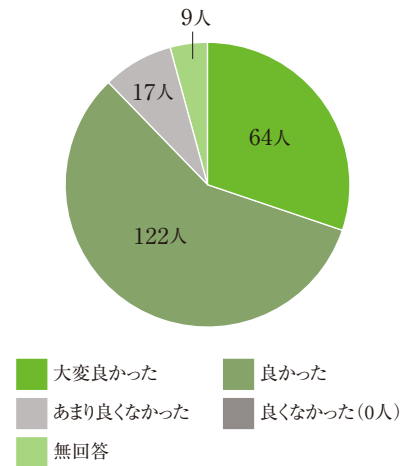
■参加者の年齢構成



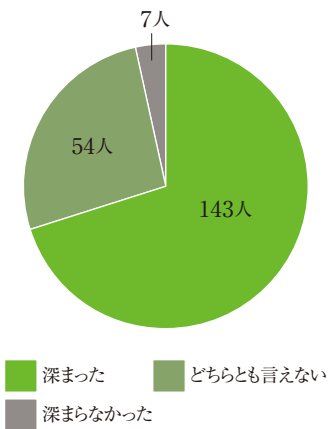
■参加された動機をお聞かせください
(複数回答可)



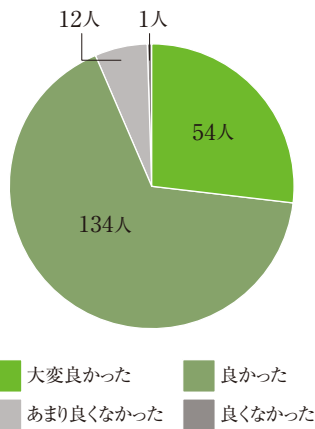
■説明はいかがでしたか？



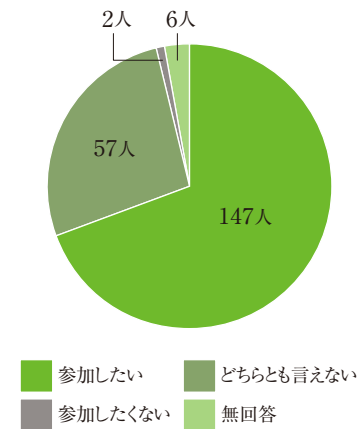
■テーマに関する理解は深まりましたか？



■全体の感想はいかがでしたか？



■また参加してみたいと思いますか？



あなたもまちづくりのパートナー

今回、タウンミーティングに参加された皆さんにご協力いただいたアンケートでは、「テーマに関する理解が深まった」「また参加したい」といった好意的な評価を多くいただきました。一方で、これからのまちづくり、地域コミュニティの担い手である若い世代の参加の少なさを指摘するお声も多くいただきました。

しかし、ライフスタイルの変化や価値観の多様化が進む現代において、まちづくりへの関わり方は人それぞれ。ましてや、行政から強要するものでもありません。地域の課題に関心を持って、こうして最後まで読んでいただける方が1人増えるだけでも「協働のまちづくり」は一步前進です。町民の皆さんと行政がまちづくりの対等なパートナーとなって、役割を分担し、手を取り合えるような関係を目指し、今後も対話や情報共有などを通じて皆さんとの意思疎通・相互理解を深めていきたいと思ひます。